

## 「落語と私」 その貳拾貳

### 三代目 橋ノ百圓

エー、今年は大型台風が多くて、被害を受けた方々は大変ですネ。心よりお見舞申し上げます。

何んだか手紙の書き出しの様な・・・。

今回からは、落語の四季について書きたいと思います。マア外の分野でも季節感は大事でしょうが、落語では特に季節に気を遣います。先代、五代目柳家小さん師匠が良く口にしたのが「落語は、噺の情景、登場人物の描写(人を出す事)と季節感がシッカリ描ければ、噺は自然に面白くなる」仰る通りですが、それが中なか難しいのです。

まずは、春夏秋冬と言いますから、春から書き始めます。春と言いますと、真ッ先に桜が思い浮びますが、正に桜に関する噺は多いですネ。「長屋の花見」「花見酒」「花見の仇討」「あたま山」「百年目」まだまだあると思いますが、桜を題材にした噺は、登場人物全員がニコニコと楽しく終わるテエ事は先ず無いですネ。大概が何かのシクジリがあって落げに繋げる噺ばかりの様に思います。マアその辺が落語なのでしょうが、ただ！この様な噺は、春らしく心が浮きうきして来ます。



飛鳥山公園

出典：www.city.kita.tokyo.jp/

春の語源は、花芽などが脹らむ事、ハルから来ていると聞きました。

無論、桜に因んだ噺ばかりではありません「三人旅」などの旅の噺「猫の災難」の様な、酒が絡む場合、又「湯屋番」「浮世床」にみる、少々色ッポイ話題、それに「崇徳院」「幾代餅」「紺屋高尾」の様な恋心など。

この「崇徳院」は、三代目桂三木助が得意根多で、良く子供の頃ラジオで聴きましたが、今一ツ解らなかったです。次の「幾代餅」は四代目古今亭志ん生、「紺屋高尾」は六代目三遊亭圓生、実に懐かしいです。付け加えますが「幾代餅」は古今亭の噺で、同じ吉原の太夫に惚れる「紺屋高尾」との違いは、職人の我慢の年数が、一年と三年なのです。志ん生曰く、「良い若ヶエ者が、いくら惚れたからって三年も辛抱出来るか！」テな事で古今亭は「幾代餅」だとか!!

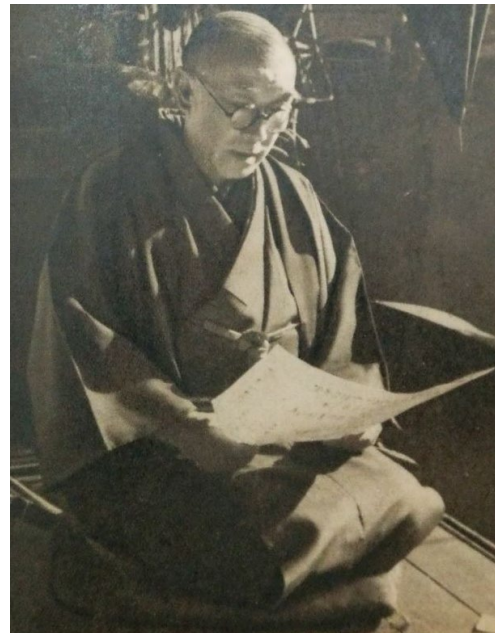
三木助、志ん生、圓生と昭和の名人が揃った処で(異論は受け付けませんです。)やはり、八代目桂文楽にご登場頂きましょう。

文楽の得意根多で春の噺と言へば「明烏」と「愛宕山」、ここでは廊噺テエ事で「明烏」を取り上げます。

この「明烏」の原話は、人情噺「明烏後正夢」の前噺が元で、又新内にも「明烏夢泡雪」として残っています。

日本橋田所町三丁目、日向屋半兵衛の倅、時次郎、初午の帰りに源兵衛と太助と言う町内の札付に、浅草観音様の裏に有る、お稲荷さんに行きましょうと誘われるが、実はこれには、時次郎の父親の「硬いのは良いが倅は硬すぎます。少しは世間の裏を見ておかないと、商の切ッ先が鈍っていきません」との親心で、札付の二人にそれとなく頼んでおいたのです。それも親爺の薦めで、お籠りとなり、無論、吉原へ行くとは知らない時次郎は、今年二十歳になると言うのに、繋ぎの店で一杯遣る時に、親から聞いた内輪話を全部喋ってしまうほどの初心な若旦那、そんな言葉にビクともしない源兵衛は「良いじゃねエかザックバランで」と、蛙の面に小便、道中色々と在って(中略)お茶屋に顔を出した時には、その女将を「お巫女頭」と上手く誤魔化して、いよいよ廓の中へ、文楽はここで「稲本、角海老、大文字、品川楼、大楼でございませぬ、幅の広い梯子段を上りますと・・・」と声を一ツ調子上げました。そこで、春の吉原が色めいて、華やかな別世界で、男の遊び場なんだナ！と言う事が頭に浮びます。相方には、歳は十八の当時の吉原でも一、二の美人浦里と決った処で、ここがお女郎屋だと分った時次郎「どうしても帰る！」の一点張、そこは、酸いも甘いも心得てる札付の太助「三人で来たのに、一人で帰ってご覧なさい、怪しい奴だっでんで大門で縛られて留られますヨ」この脅しが効いて、時次郎は浦里っ部屋に放り込まれる事になるのだが(中略)“女郎買い、振られた奴が起し番”テな訳で、源兵衛と太助が若旦那を起しに来て驚いた！一人で帰ったと思った時次郎が浦里と二人で布団の中に、若旦那は赤い顔で「中なか良いお籠りで・・・」追い討ちを懸けて若旦那「花魁は口では起きろ起きろと言いますが、布団の中で私の体をグッと抑へて、アア苦しい」この言葉に腹を立てた二人は「坊っちゃん、貴方は暇な体なんだ、私ッし達は先に帰りますヨ」と若旦那は布団の中から「帰れるもんなら帰ってご覧なさい。大門で留られます。」仕込落ちと見事なトタン落ちです。文楽が現役の頃は、外の噺家さんは、この「明烏」を懸けませんでした。今は多くの人達が演じて、改良も加へられ、吉原を知らない者にも楽しく聴ける噺になりました。

廊噺の名作です。是非一度聴いてください。



桂文楽 (8代目)

出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>